

関西・大阪21世紀協会 設立35周年 成果報告 & 記念公演

2018年10月5日 / NHK大阪ホール

成果報告

さまざまな文化事業や 年間延べ600万人以上

文化事業



アートストリーム2018(大丸心齋橋店)



関西・大阪21世紀協会
理事長 堀井良殷

関西・大阪21世紀協会は、35年にわたりさまざまな文化活動やアーティストへの支援、関西・大阪の文化力を高める提言や社会実験などを行ってまいりました。今日まで続けることができたのは、賛助会員の皆様をはじめ各界の方々のご理解と

ご協力のおかげであり、心より感謝申し上げます。

21世紀に入って当協会は、美しい水の都をつくろうという運動を提案し、推進してまいりました。そうして市民が動き、ボランティアやアーティストが参加するなど官民あげての努力で、中之島一帯や道頓堀川など川辺の風景が一変しました。今やそうした水辺は観光スポットになり、近隣に高層住宅も立ち並び、経済効果をあげています。

35年前、先輩諸氏が高い志をもって立てられた「大阪21世紀計画(1982年)」は、現在、さまざまな形で発展しています。当協会は5年前から、上方伝統芸能の振興事業や1970年日本万博の理念を伝える日本万国博覧会記念基金助成事業、皆様の寄付によってアーティストの活動を支援する「アーツサポート関西」事業などを相次いでお引き受けしております。

例えば上方文化芸能の振興事業では、今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」や「堂島薬師堂節分お水汲み祭り」、「住吉大社御田植神事」などを支援しています。いずれも毎年大勢の見物客で賑わい、内外に発信され、大阪のブランド力を高めています。

また、「アーツサポート関西」事業では、発足から4年間に1億円のご寄付をいただき、若い人の文楽鑑賞機会の提供(ワンコイン文楽)や、若手囃家の技能向上と落語ファンの裾野を広げる「上



大阪文化祭賞贈呈式(リーガロイヤルNCB)



平成OSAKA天の川伝説(大川・天満橋~北浜周辺)

ヨーロッパ
36か国・255件
17億9,708万円

アジア・中近東
32か国・330件
19億5,049万円

アフリカ
20か国・40件
2億8,343万円

オセアニア
5か国・63件
2億9,336万円

・日本万国博覧会記念基金助成事業承継5年
 ・「アーツサポート関西」支援5年
 ・上方文化芸能振興事業承継5年

助成・支援を通して、 に思いを伝えています。

方落語若手噺家グランプリ」、天空の「天の川」を川面に再現する「平成OSAKA天の川伝説」、音楽や絵画のアーティスト支援などを続けています。そのなかには海外で活躍する周防亮介さん(ヴァイオリニスト)のような才能も育っています。

日本万国博覧会記念基金助成事業では、基金創設以来114か国、約4,500件、総額約192億円の助成実績を積み重ね、国際相互理解と文化芸術教育を支援するとともに、日本の心を世界に届けてまいりました。

さらに、新進気鋭のアーティストに飛躍のきっかけを提供する「アートストリーム」、当代一流の「知」が集まる「関西・大阪文化力会議」、文化芸術活動でめざましい成果をあげた人を顕彰する「大阪文化祭賞」、2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムでもある「大阪城サマーフェスティバル」など、当協会が主催・共催する文化事業や年間150件にのぼる後援事業に関係する全ての人たち(出演者、スタッフ、観客動員)を合わせると、年間延べ600万人以上(2017年度は約660万人)に私たちの思いをお伝えできているのではないかと考えています。

2018年の日本列島は、地震や台風など災難続きでした。しかし私たちは、こうした自然災害はもとより、社会・経済のさまざまな困難に直面しても、未来に向かって力強く生きていかなければなりません。事実、そうした中であって大地に根をおろし、文化を人生の糧として元気に活動している人々がたくさんおられます。そうした人たちを応援し、つなぎ、ほめたたえることこそ、社会に魅力と活力、地域のブランド力を高める根源であると思います。

時代の荒波が次から次へと押し寄せてきますが、最後に残るのは文化だと思います。文化は私たちに勇気と元気、そして新時代を開く創造力を与えてくれます。そうしたさまざまな文化がいっぱいに音色を出し、オーケストラのごとく大きな響きになることを願っています。

上方文化 芸能振興 事業



今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」



御田植神事(住吉大社)

アーツサポート関西



「ワンコイン文楽」への支援



上方落語若手噺家グランプリ(天満天神繁昌亭)

日本
46都道府県・3,487件
122億5,358万円

北アメリカ
10か国・285件
18億889万円

万博記念基金助成事業

過去48年間の助成累計
114か国、約4,500件、総額約192億円

南アメリカ
10か国・90件
7億9,895万円

2017年度の参加人数		(人)		
	主催	共催	助成/後援	
文化事業	2,675	1,009,104		
上方伝統文化振興事業	740			
日本万国博覧会記念基金助成事業			1,122,284	
アーツサポート関西			15,483	
後援事業			4,460,405	
小計	3,415	1,009,104	5,598,172	
合計				6,610,691

記念公演

2018年10月5日/NHK大阪ホール

～ 未来へ羽ばたけ、大阪文化力～

Flügel abend 2018

* Flügel (フリューゲル：翼)、abend (アーベント：夕方、夕べ)

第1部では、これまでに当協会が支援・応援した関西を代表する優れたアーティストたちの活動をご紹介し、引き続き第2部では、洋と和の伝統芸能、バレエと浪曲を組み合わせて相互の理解を深めるという新たな創造にチャレンジしました。NHK大阪ホールは、埋めつくされた1,100人の観客による大きな拍手の渦に包まれました。なお、この公演は、日本の強みである地域の豊かで多様な文化を活かした成熟社会の創出を目指し、文化庁が推進する2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラム「beyond 2020」にも呼応しています。



主催：関西・大阪21世紀協会
共催：大阪文化芸術フェス実行委員会
協力：NHK大阪放送局
後援：関西経済連合会、大阪商工会議所、
関西経済同友会、大阪観光局

バレエ × オーケストラ × 浪曲

地主薫バレエ団、春野恵子さん(浪曲語り)、一風亭初月さん(三味線)、
藤岡幸夫さん(指揮)、関西フィルハーモニー管弦楽団

チャイコフスキー『眠れる森の美女』より～East meets West～

グリム童話『眠れる森の美女』の各シーンを、心揺さぶる三味線の調べにのって五・七・五調の浪曲で語り、オーケストラの演奏に合わせてバレエで踊るといふ、これまでにない実験的な舞台構成に驚かされ、情感溢れる浪曲の語りと美しいバレエ、オーケストラの高揚感に、終演後、会場からは「ブラボー！」の声が続呼。興奮と感動に包まれました。

来場者の年齢層は10代から80代まで幅広く、男女比はほぼ同数。当日のアンケートでは、「浪曲でストーリーが語られるので、バレエのシーンが分かりやすかった」というご感想や、「バレエやオーケストラに対して近寄りやすいイメージがあったが、とても親しみやすさを感じた(10代女性)」「バレエと浪曲のコラボで、両方の理解が深まった(60代男性)」「オペラやクラシックバレエ、浪曲が一堂で鑑賞できてよかった(50代女性)」「非常に興味深いチャレンジで、まだまだ可能性を感じる。もっと進化していくことを期待する(50代男性)」、さらには「世界初、誰が思いついたか素晴らしい発想。生きてい

るうちにこのような素晴らしい(奇想天外な)企画に出逢うことができたことを幸せに思う(80代男性)」「どの分野も超一流で、それが見事に合体してこれ以上の贅沢はない(50代女性)」など、多くの方から好評をいただきました。運営にあたっては留学生の協力もあり、舞台を鑑賞して「こんな体験は初めて。留学して最初の思い出になった」との声もありました。



藤岡幸夫さん



春野恵子さん(左)と
一風亭初月さん(右)

Flügel abend 2018 を振り返って



春野恵子さん
(浪曲師)

一風亭初月(いっふうていはづき)

和歌山県出身。英知大学文学部英文学卒業後、OLを経て1998年藤信初子師に入門、2000年デビュー。多数の地方公演に加え、春野恵子さんと共に海外公演も行う。公益社団法人浪曲親友協会理事。

関西フィルハーモニー管弦楽団と地主薫バレエ団の「眠れる森の美女」のストーリーテラーをさせていただきました。私自身、初めての試みでしたが、オーケストラとバレエの迫力を間近に感じながら、楽しく語らせていただきました。普段、浪曲を聞く機会のない方にも、耳を傾けて頂けて嬉しかったです。またこのような機会があれば、ぜひチャレンジしたいと思っています。

東京都出身。二代目春野百合子師に弟子入り後、2006年に初舞台。全国各地で年間200回の浪曲公演を行うほか、欧米など海外公演も精力的にこなす。2012年咲くやこの花賞、2014年関西元氣文化圏賞、2018年大阪サクヤヒメ賞を受賞。公益社団法人浪曲親友協会理事。



フロrestan王と同妃の前で、
王女(オーロラ姫)の誕生を祝って
妖精たちが踊る。



そこへ邪悪な妖精(カラボス)が現れ、
「王女は16歳の誕生日に糸紬ぎの針に
刺されて永遠の眠りにつくであろう」と
呪いをかける。



王女16歳の誕生日。
祝いの席に現れた老女(カラボス)が、
毒針をしのばせた花束を渡し、それが
刺さって眠りにつくオーロラ姫。



100年後、狩りをして森にやってきた
デジレ王子が眠っている王女を見つけ、
接吻をすると…。

Flügel abend 2018 を振り返って



地主 薫さん

(地主薫バレエ団主宰
演出・振付)

バレエと浪曲がうまくコラボレーションできるのか不安はありましたが、ご来場者の皆様から「バレエのあらすじが分かりやすく語られ、とても楽しめた」という感想をいただき、うれしく思いました。また、世界最高レベルのアーティストの方々とご一緒させていただき、いろいろな芸術・芸能の素晴らしさを勉強させていただきました。今回の舞台公演をつくられた関西・大阪21世紀協会の皆様のお力も強く感じました。今後もこうした文化活動やアーティスト支援を通じて、関西・大阪から世界へ羽ばたく人たちが増えればいいと思います。出演者全員がフィナーレで歌った「花が咲く」は、私自身とても感動しました。私たちが元気に日々活動できることに、心から感謝したいと思います。

地主薫バレエ団：地主薫さん主宰。2008年大阪文化祭賞でバレエ界初の大阪文化祭賞グランプリに輝き、2014年文化庁芸術祭舞踊部門大賞、2016年同優秀賞を受賞。付属のバレエ学校を設立し、若い人材の育成にも力を注いでいる。



呪いが解け、王女も宮廷の人々も長い眠りから目をさます。

森の中では、赤ずきんちゃんと狼のコミカルな掛け合いも。



～金メダルを目指して～

地主薫エコーラ・ド・バレエの生徒たち

シヨスタコーヴィッチ『バレエ組曲第4番より“スケルツォ”』

「beyond 2020」プログラムに呼応して作られた演目。陸上、体操、ボクシング、空手、野球などの選手に扮した8人のダンサーが、関西フィルハーモニー管弦楽団の演奏に合わせてバレエでオリンピックの種目をコミカルに表現しました。



関西フィルハーモニー管弦楽団



地主薫エコーラ・ド・バレエの生徒たち

Flügel abend 2018 を振り返って



©SHIN YAMAGISHI

藤岡幸夫さん

(関西フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者)

関西・大阪21世紀協会の皆様、設立35周年おめでとうございます！ 私は来年で関西フィルとの20年目のシーズンを迎えますが、これまで協会の皆様には多大なるご尽力を頂き心より感謝いたしております。10月5日の公演は、協会ならではの斬新なアイデア、春野恵子さんの浪曲と地主薫バレエ団のコラボ!! というびっくりするような企画で、演奏している私たちも大変楽しませていただきました。若きヴァイオリニスト・周防亮介さんとの共演は、関西出身の素晴らしい才能を積極的に応援するという、大変意義ある協会ならではの企画だったと思います。これからも関西の文化芸術の発展のため、どうかよろしくお願いたします！

東京都出身。2007年より関西フィル首席指揮者。BSテレ東の音楽番組「エンター・ザ・ミュージック」(毎週土曜夜11:30)に出演中。Twitterアカウント @sacchiy0608

関西フィルハーモニー管弦楽団

1970年創立、2020年に50周年を迎える。世界的ヴァイオリニストのオーギュスタン・デュメイが音楽監督、藤岡幸夫が首席指揮者、飯守泰次郎が桂冠名誉指揮者に着任している。

ヴァイオリン周防亮介 × 関西フィルフィルハーモニー管弦楽団

関西から世界へ羽ばたく

ヴァイオリン 周防亮介さん (ASK支援アーティスト)
指揮 藤岡幸夫さん

P.Iチャイコフスキー

『ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35』より第1楽章

スイス留学中の周防亮介さんが、このステージのために帰阪。繊細かつ力強い演奏で来場者を魅了しました。藤岡さんと関西フィルとは初共演の周防さんは、演奏後、「団員の方々の中には、子供の頃に音楽教室でご指導いただいた先生や先輩がおられ、親しみをもって演奏させていただいた。音楽やヴァイオリンの魅力を伝えられる演奏家をめざして、これからも地道に勉強を重ねたい」と語りました。

周防亮介さん

1995年京生まれ。東京音楽大学アーティスト・ディプロマコースを首席で修了し、メニューイン国際音楽アカデミーにてマキシム・ヴェンゲーロさんに師事。国内外の主要オーケストラとの共演も多い。2018年大阪文化祭賞奨励賞ほか受賞歴多数。



大阪コレgium・ムジクム合唱団

指揮・演出 当間修一さん

室内オペラ <清姫 - 水の鱗>

1975年に創設された大阪コレgium・ムジクム合唱団は、ドイツやイタリアなどでの公演歴も多く、ヨーロッパ各国で絶賛されています。主宰者の当間修一さんは、文化庁芸術祭優秀賞(1998年)や大阪文化祭賞グランプリ(2011年)などを受賞。同合唱団を率いて数々の公演を行うほか、日本福音ルーテル大阪教会(大阪市中央区)で毎月演奏会を開催しています。

今回の記念公演では、安珍・清姫の悲恋物語の名場面が、二人の独唱と混成合唱で上演されました。また、この日のオープニングとして、自然とともに生きる人間への讃歌『みさかえはあれ(宮沢賢治詩、千原英喜作曲)』と、ベートーヴェンが平和を願って作曲した『交響曲第9番』の2曲が披露され、ホールは厳かなムードに包まれました。

ストーリー 修行僧・安珍と美しい娘・清姫が旅の途中で出会い恋に落ちる。しかし、修行中の安珍は断腸の思いで清姫と別れ、清姫は悲しみのあまり亡くなって大蛇と化す。折しも安珍は道成寺の火災に遭って大釣鐘の中に閉じ込められ、その窮地を救うべく大蛇(清姫)が灼熱の釣鐘に巻き付くが共に絶命。二人は死んでのち永遠に寄り添う。



横畑真季さん
(清姫:ソプラノ)



阿部剛さん
(安珍:テノール)



大阪コレgium・ムジクム合唱団



当間修一さん



木下亜子さん(ピアノ)

Flügel abend 2018 を振り返って



大西 毅さん
(演出家)

昨年、一作年のNHK大阪ホールでの公演(交響楽 能)に引き続き、台本作りと演出を担当させていただきました。今回は、私の今までの仕事の中で一番悩んだ作品になりました。様々なパターン・展開が存在し、元々セリフがないバレエの演目を浪曲の台本に落とし込むのにとっても苦労しました。もしかするとメルヘンを浪曲で語られたのは初めてではないかと思えます。また、バレエ、浪曲、交響楽それぞれの舞台に集中できるよう、あえて字幕や音声ガイドを使用せず、それぞれの出番を分けて進行する構成にこだわりました。浪曲やバレエだけでも十分にお楽しみいただけたと思います。